

日本國誌

全

大槻文庫

洋学文庫

文庫8

A 154



明治己巳秋八月

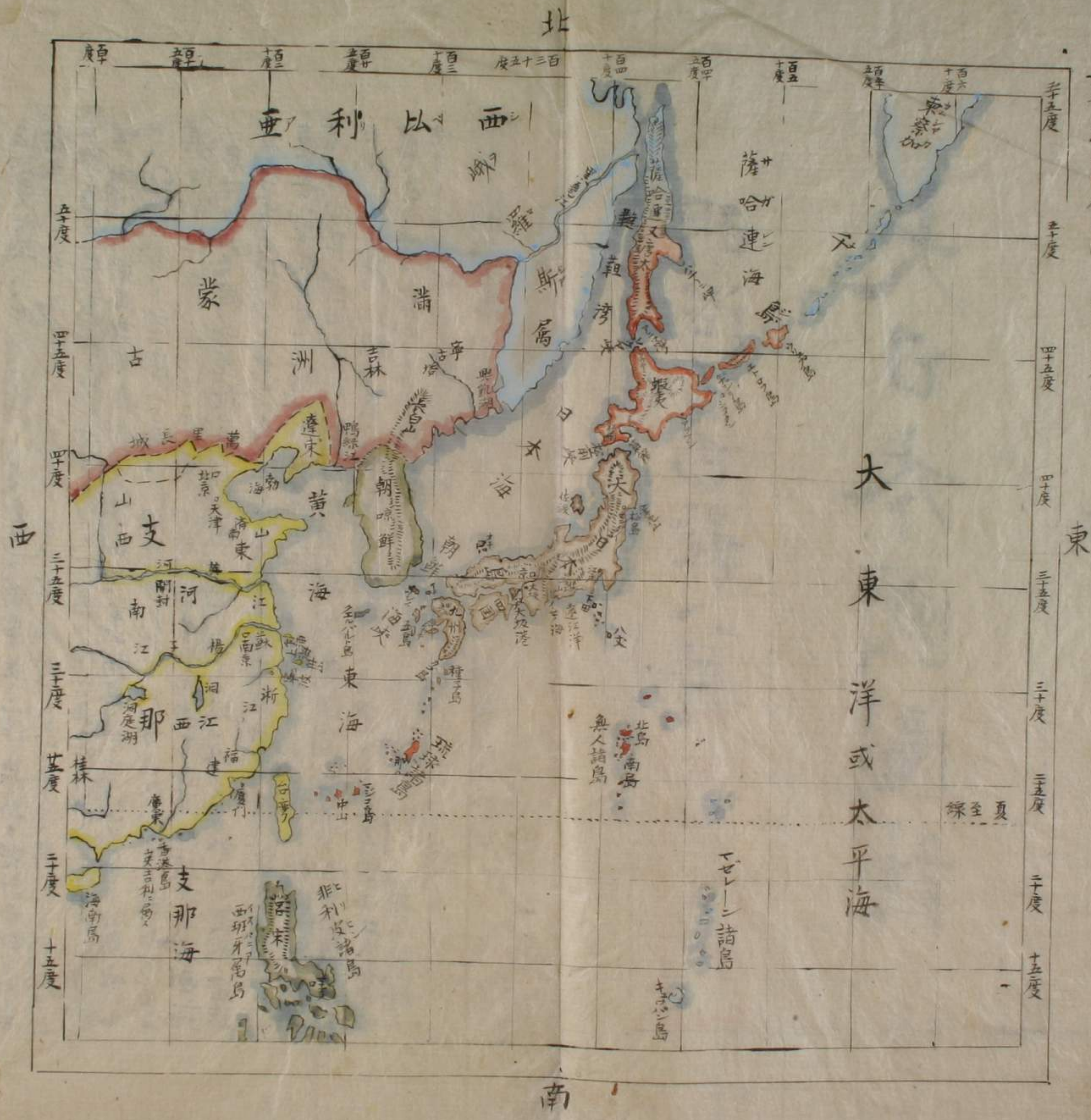
大槻文庫

大日本國圖誌

復軒學人譯

日本近海全圖

赤色、日本本領
藍色、日本領土



○皇國ノ名称五畿七道ニ島ヲ以テ合稱シテ日本ト云々或ハ大八洲ト云フ而シテ蝦夷北蝦夷如キ此内ニテ洋人ノ稱呼ハ則然ラス中心ノ大島即兩京ノ島ヲ日本島トシ其
 他ハ則西海道邦人ノ九州或ハ西國ト稱スル島ヲ九州島ト稱シ南海道西國ヲ西國島ト
 云蝦夷北蝦夷佐渡隱岐壹岐對馬淡路等並ニ上洋ノ諸島ヲ總計合稱シテ業半
 諸島ト云フ卷中日本ト云フハ業半ニ當リ中部ノ大島ヲ云フハ島ノ字ヲ加ヘテ以テ之
 ヲ分ツ者官之ヲ熟視セヨ○エトワ島ノクニク島ウレツア島ノ如キハ洋人ノヲキエリル諸島ト
 唱フ我國ノ千琉球諸島無人諸島等所謂業半諸島外ニシテ是ヲ日本ノ高島ト唱フル
 ナリ○サカレント云ヒ唐太ト云ヒ皆北蝦夷島ノ列稱ナリ○方里積何里トハ諸島何レモ
 其ノ全面地ヲ平均シテ此内ニ三厘四方ノ物幾箇アリト云ル義ナリ西洋ノ地理書中各國玉地
 ノ廣狹ヲ記スル總テ方里積ヲ以テス我國ノ地面ヲ數ニテ坪ヲ以テスルガ如シ○英國ノ里法
 我國ノ里法ハ較シテ其ノ短カレ大抵英國ノ二里半ニシテ我國ノ一里ニ當ル○我國ノ
 真主ハ即チ天皇ニシテ一統締、將軍ハ人臣ニシテ卷中記スル所名分大ニ錯雜々當時開
 港時特彼其ノ自叙スル所ヲ以テ直ニ筆又故ニ然リ其傳聞誤訛ト各分、錯雜々今手
 ガ辨テ待タズ○北蝦夷島ハ魯西亞ト我國ノ境界分明ナク五六年間小出大和守旧
 幕ノ命ヲ受テ魯國ノ使ヒレ應接談判スルモ遂ニ決セテ今ハ則西國箱居ト云フ譯ニ
 決セリト故ニ圖中ニ之ヲ境ニシテ事淺顯ナリ

明治二年己巳秋八月

復軒學人誌

日本國誌

西洋一千八百六十年著

大槻復三郎譯



度数

○緯線赤道北二十四度^{十六分}起テ五十度二十分ニ至ル、經線英國グリ
 ンウィッチ東百二十八度十二分ヨリ百五十一度二十三分ニ至ル、米利堅ワシント
 ニヨリ西百三十一度三十五分ヨリ百五十四度四十六分ニ至ル、

境界

○北ハオホツクシ海、東南ハ太平洋、西、西北ハ朝鮮海峡、韃靼灣、日本
 海ニ境ス、

廣狹

○日本ハ北太平洋ニ於テ一箇ノ島嶼帝國ナリ、支那ノ陸地ヲ離レテ

数多ノ島ヲ以テ體ヲ三箇ノ大ナル山多キ噴火山多キ島ヲ有ス、即日本國九州島、四國島ナリ、其他無数ノ小島アリ、就中有用ナル者ヲ佐渡對馬淡路種子島壹岐夜久島大島、沖島、ゴト島、等ノ島嶼ノ聚アリヲ以テ日本全領ヲ形ナス、

蝦夷ノ大島、日本島ノ北ニ當テ松前海峽ヲ以テ分断シ北蝦夷島ノ南部ノ半ト千島ノ南方數島トテ松前侯ニ屬ス

無人島琉球島亦并ニ日本ニ屬セリ

日本帝領ノ此數多島嶼ノ廣狹ヲ知之為メ次ノ表ヲ掲ク

日本	顯著諸島	日本	九州	四國	壹岐佐渡對馬淡路
本領	附屬諸島ノ數	千三百六十九島	千五百十五島	五百廿六島	二百零一島
方里積	九万七千六百八十里	二万二千四百三十七里	七千六百三十三里	五千六百七十七里	

日本	顯著諸島	蝦夷	千島	北蝦夷	無人島	琉球
屬領	附屬諸島ノ數	八十三島	四八島	二十七島	八十九島	九十二島
方里積	二万七千六百廿七里	千八百八十二里	一万四千九百二十六里	百廿二里	三千七百六十二里	

總計方里積十六万三千七百七十七里、人民ノ數ハ算計スル者種ニナレ共、何レ三千五百万人ヨリ五千万人マデノ内ヲ出テズ、恐ラク此ニツノ者ノ中央ヲ以テスル實數ニ近カルベシ、然レ此布散セシ帝領ノ等數ノ實情不分明ナリ不満足ナリ、

窮理上ニ就テ説ク地形、并ニ地價

○最モ大ナル日本島ハ東北ヨリ西南ニ涉リテ長サ七百餘里幅ハ或ハ百里或ハ五十里、九州島ハ長サ北ヨリ南ハ二百里幅百廿里、本島ト一ノ海峽ヲ以テ離レ其

海峡狹手所幅二里ナリ、

四國島、第三等ニシテ三ツノ頭着ナル島、内ニテ尤小ナル者ト大、長サ百四十里、幅六十里、九州ノ東ニアリ、豊後海峡ヲ以テ分断ス、其最狭キ所十里ニ上ラス、四國ノ東北日本島上離レ名所ノ海峡ハ稍廣シ、而シテ無数ノ小島此中ニ存在シ、其間僅ニ一里ナル所アリ、

蝦夷島ハ三角形ヲナス、傍面各ニ三百里、二百六十里、長サ則二百二十里、其東南日本島ト松前海峽ヲ以テ離レキ、其最狭キ所幅八里、

佐渡ハ要用ナル島ニシテ日本島ノ西ニ横タリ能登岬ト曾西岬ト間ニアリ、長サ大凡四十五里、幅廿里、或ハ廿四里トイフ、日本島ヨリ離レ名所ノ海峡最狭キ所幅大凡三十里ナリ、外國航海者尚未ダ此島ヲ訪尋セズ、

諸島ノ海岸、深ク削鑿シ、港浦湾崎ヲ以テ甚タ凹凸ナリ、全島地面甚タ平ナラス、高山峻嶺各所ニ穴兀ナリ、此穴兀日本島ニ於テ最多シトス、山脉波濤ノ如ク全島ノ南北ニ横割セリ、就中最高キヲ富士トイフ、火山ト共今ハ火ヲ噴セス、白雪之ヲ蓋テ盡期ナク、高サ一万余尺、然レモ山裾漸ニ四方ニ下重シ、其水氣凡所ニ以テ仰キ耕スベシ、

日本諸島ハ即チ噴火山脈ノ線道ニシテ、北ハアレウチノ諸島ヨリ起リ、日本諸島ヲ經過シ、ヒリッヒノ諸島、スハク島、シヤク島、スヤク島ヲ經テ、乃西北ニ趣キ、ベルガルカノ海ニ至ル、其線脈ヲ證ス所ノ噴火山、蝦夷島、日本島、九州島、其数許多ナリ、地震ハ大動揺ヲ起シ、屢々シテ、千七百八十五年、蝦夷島ニ於テ、一人地心ニキ破

壊ヲ起セリ、二十三箇ノ村落ヲ山崩潰ス、九州島ニ於テ、五丈山ノ一
ウニセシ、島ノ周囲住居ノ人民最恐怖スルモノ、千七百六十二年ノ
破裂ニ五万三千ノ人民ヲ崩殺ス、

日本諸島ニ於テ多ク製衣作履ハ「トラチート」「バガルト」並ニ石ノ名ナリ製衣造履
ベキ粘土、瘠土ヲ沃ス土、花ニヘルス、ハル詳各所ニ製産ス、一山全ク磁器
粘土ナル者アリ、

帝領、礦山物ノ富甚ク大ナリト云、金、銅、銀、鉛、錫、鐵、等、佐渡島尤
金ニ富メリト聞ケリ、日本ノ錫、花銅ノ質甚ク上品ナリト云、石灰、各所
ニ見出ス、硫黃多シ、温泉所ニ涌出ス、俗ニ鯨香トイフ亦海岸ニ於テ
見タリ、諸島川流許多ナリ、然レモ流行甚短シ、多クハ急流ナリ、湖水
ニ至テ詳ニ悉ス能ハズ、

○氣候

○日本ノ氣候ハ、北部ハ寒烈シク、南部ハマシス國ノ南方ノ温暖ニ齊ス、
極メテ定マラストイヘドモ、全體ハ此就テ論ズレハ、周回大洋ノ風ニ因テ、緯
線ノ位置ヨリ、温和ナリ、

日本島ノ南部、花ニ九州島ニ於テハ、寒暖計計、盛夏八十度、嚴冬三十五
度ナリ、緯線北三十二度ノ處、厚氷數多ク、緯線ヲ為ス、三十六度ノ湖
水氷ヲ以テ蓋ヒ一枚様ヲ為ス、三十八度ヨリ四十度ニ至レハ、氷蓋ニ厚ク
川流河以テ涉ツテ行クニ、北四十五度、分蝦夷島ソウヤ岬ニ至レハ、民生
ズトイヘトモ刈收極メテ少ナシ、冬時寒氣酷烈、住居洞穴ニ入テ寒ヲ護ス、
雨多シ、颶風、風雨亦屢ナリ、而シテ時トシテハニ枚烈ナリ、

○植物

日本人種ハ大蒙古韃靼種ヨリ支レ来ル人種中ノ一種ナリ、頂骨廣ク大ニシテ、頬骨高く、眼黒ク小シテ、斜ニ位置ス、毛髮黒クシテ長シ、面容楕圓ニシテ黄色アリ、或青白ナリ、間端正見好キモノアリ、人民盡ク能ク製作シ、能ク勉強シ、且穎敏ナリ、

「シールド」云々、説ニ日本ノ人民ヲ三種ニ分ツ、曰海岸住居ノ民、曰都市住居ノ民、曰國內住居ノ民、此中ニ就テ、又自然ノ外形ト、風俗トニ縁テ、八等ニ分ツ、曰侯、曰貴族、曰僧侶、曰兵卒、曰國內吏人、曰商賈、曰工匠、曰傭夫、以テ嚴密ニ種ニ支配サレリ、人毎ニ変セズシテ、其父ノ業ヲ継ケリ、進退動作於テ、日本ヲ貴重スキ事ハ、能ク事ニ熟練シ、業ニ疑固シ、勇氣アリテ、又心胸ヲ開キテ、事ヲ隠サズ、悪意ナク、行儀ヨク、國法因テ、毎ニ腰ヲ屈ス、丁寧ナリ、其他國中農民ハ、能ク勉勵シ、沈着シテ、人ヲ善

ノ遇待テ、所ニ付テ、能ク注意スルハ、其性質ヲ見ルニ足ルベシ、

日本人ノ服飾、絹或ハ木綿ヲ以テ製シ、其聲束ナシナル衣服ナリ、高位ノ人ハ、我國婦人ノ服ノ如キ、股引ヲ着シ、袴ヲ穿テ、二箇ノ刀ヲ帶ス、人民兩ニ特ニラザレバ、帽ヲ用ヒス、頂上ノ金キ前面ヲ剃シ、餘髮ヲ以テ、此裸体ノ頂上ニ髻髻ヲ為ス、婦人甚長キ髮ヲ結ビ、鬘甲ノ種ニテ、貴キ飾ヲ加テ、皆彩色ヲ以テ、天然ナル面貌ヲ破リ、唇ヲ紫色ニ染メ、而シテ人ニ嫁スルハ、齒ヲ黒クシ、眉毛ヲ剃ス、日本ノ法度於テ、必シモ禁セストイヘドモ、同時ニ教人妻ヲ聚ル事ハ、為サズ、風習ハ、人民奴隸ノ如ク、辱シ苛苦ナル事アリ、笑スキ礼儀ナリ、

國內教方、別ニ草神道トイヘル、自註、諸神ヲ敬テ信用、或ハ諸神ニ遊ハシメテ、道ヲ修ム、教アリト雖、佛法ヲ以テ、國內一
定ノ教トス、此神道ノ僧ハ、神ヲ奉リテ、妻ヲ娶リ、言語、言葉ノ綴リ多クシテ、四十七文字ナリ、書法四體アリ、未詳、カタカナ、ヒラガナ、男子等ヲ云フナルベシ

政府、血脉ヲ以テ繼ク所ノ統一獨^裁ニ政治ナリ。

帝王ニツリ、一ヲミカト^フ、或ハダイリサ^ニ、内裡様ト云ヒ、宗旨ノ何^{所以}ヲ帝ニシ

テ、ミヤコ^都ニ住居ス、一ヲシオグ^シ、將軍或ハクボ^公ト云フ、武ノ帝トス、首都

ナル江戸住ス、次ニ王、國內政府ニ關係スルシテ、是ヲ真王トス、最初ノ王、宗

旨、并教育^知ヲ督^テテ、諸有司、圍繞シテ、殆^ニ神ノ如ク尊

敬ヲ以テ、取扱フト云フト、雖^モ、是唯第二ノ王ナリ。

江戸住ス所ノ將軍、即專主、五諸侯中ノ一議事官、輔佐ヲ受ケ、^{何所以詳}

會合^ニ、因テ、法制ヲ立テ、或ハ國內事件、罪科ノ条^ヲ決断ス^ルナリ。

帝領、八大部、或ハ八^ト、區別ス、而シテ、再ビ之ヲ六十八州ニ分チ、又六

百二十郡^ト、細微ニ分チ、將軍ヲ命ゼテ、將軍ニ附屬スル所ノ役人^ニ、因テ、支配ヲ

受ケ、故^ニ、其權勢、實ニ廣大自由ナリ。

法令嚴酷シテ、苦痛ノ刑、又刎首磔殺ハ、尋常ノ刑ナリ。

普ク歲入ハ、唯土地ノ家^トノ租稅ヲ配納ス、^{屋賃ノ租稅ハ、店賃ノ租稅ハ、}土地ノ家^トノ郡國固

有^ル物^ト、斯クナス所ノ者ナリ。

兵隊ハ、平時歩兵十萬人、騎兵二萬ト云、^{何據ル}海軍ハ、緝練ナシ、軍法并禁

城ノ術^ハ、僅ニ了解ス^ルナリ。

都府、市街等、

顯著トシ、尤モ要用ナル、帝領中ノ市街ハ、次ニ奉^ケガ如シ。

日本島 江戸、京、大坂、下田、蒲賀等、

九州島 長崎、佐賀、小倉、鹿兒島、高鍋等、

四國島 高知、高松、松山等、

蝦夷島 箱館、松前、アッケシ等、

琉球島 首府 那霸寺

○江戸

江戸、政治上ニ拘リ名首都シテ、將軍、即武辺ノ天子ノ住居ナリ、江戸湾ノ上ニ在リ、
 東南ノ海岸ニ在リ、東南解シケル、或ハ東緯線三十五度四十五分、北北經線百三十九度
 三十八分、東東ニ當リ、江戸湾、ヨリ北端ニ至ル、長サ七十里、横ニ二十里、市街ノ位置
 運船ノ通行ノ為、平均シテ溝廣ク、廣大ニ掘リ渡シ、数多ク川河アリ、
 家屋、大抵木材並壁泥ヲ以テ建ズ、然レモ、府中貴族ノ許多住居アリテ、彫刻
 彩色ノ飾アリ、種々大寺院、堂塔、或ハ僧ノ官府、其他無数ノ寺院アリ、
 王殿、府ノ中央ニ在テ、威嚴ニ聳ケル、五所ノ堡塞アリ、詳ナラ又裏面ニ大ニ園庭アリ、
紅葉山ヲ外郭ヲ以テ、八里ノ周囲ヲ守護ス、市街ノ周囲、三十里アリト云フ、住民、百二十
 万人ヨリ、七十万ノ内ト定ム、郭外モ並ニ甚ク廣大ナリ、

五階層橋

○京都

宗旨、首都、江戸ヨリ申位、二百五十里、北緯線三十五度六分、東北經線百三十五
 度三十八分、東東ニ在リ、山岳ヲ以テ周囲シタル平原、松ヲ闢ケテ、其四面ノ山麓、斜
 平ナル所、園圃、而シテ遍ク寺院、堂塔ヲ撒置ス、
 市街、長サ四里、横ニ三里、内裏、無数ノ官府アリ、住居ノ民、五十万余ト云、
 内裏、府街ノ北方ニ在リ、別郭ヲ成シ、十二或十三道ノ街衢アリ、其外、垣溝ヲ以テ
 境界ス、
 西方ニ在テ、堅固ナル城アリ、岩ヲ以テ建ス、將軍若シ、或ハ内裡ニ朝タル時、此處ニ
 街衢狭隘ナルトモ、所隔整正ナル家屋、一般ニ材木、粘土、石灰ヲ以テ作レリ、京都
 諸物製造ノ顯著ナル場所ニ在テ、學問、文學ノ中心ナリト云、
 一溝ヲ以テ、郭外ヨリ程遠カラヌ所ニ在テ、淀河ニ通ズ、高瀬川ニ云

○大坂

大坂ハ帝領中ノ尤商賣繁盛ナル場所シテ、大坂湾ノ北隅ニリテ、京都ヨリ南二十里アリ、京都ニ就テ天然ノ要港ナリ、

中央ノ淀河ハ其支流中ニ深クシテ航スベキ者アリ、常ニ幾百艘ノ運船、帆影ヲ垂テ往返ス、而シテ支流ヨリ又支流ヲ導キ、市街中、縱横ニ溝河ヲ通ス、溝河ノ兩堤ハ粗整ナル石ヲ以テ之ヲ覆ヒ、階級ヲ斬リ付ケ、梯子ノ如シ、無数ノ橋梁、松樹ノ材ヲ以テ造リ、以テ此ノ溝河ニ架ス、就中、一二ノ者ハ廣大ナル建

築ナルニミナス、高ク飾装スルモノアリ、府ノ北端ニ一大城アリ、商賈、工匠、皆富まり、羨麗ナル家屋ニ住居ス、而シテ街衢ハ狹隘ニシテ整正ナリ、敷石ニテ甚々清潔ニシ、ヨリ常ノ家塾ニ三層、大抵木柱、粘土ヲ以テ建テリ、

住民甚々衆多シテ、此中ヨリ八萬人ノ兵隊ヲ出スト云、何ニ據ルヲ知ラズ

大坂人ハ一般ニ遊樂宴遊ノ戯場、或ハ劇場ヲ好ミ、日ニ諸方ニ開行ス、

米ヲ得ル所ハ強キ麥酒ニ種ナリ、尤美ナルサケ酒ヲ大坂ノ隣境ニ於テ製醸シ

也田伊丹、他ノ州郡へ許多ノ分量ヲ運出ス、

○下田

下田、江戸湾口、伊豆甲南頭ニ近キ所ナリ、尤近ク外國貿易ノ為ニ開キ、市街ノ一ナリ、緯線三十四度五分、経線百三十八度五十八分ノ所ナリ、此ニ浦賀ヨリハ要所ノ場所ナシ、浦賀、此港ヲ隔テ、首都ニ往返スル船舶ノ為メ、江戸湾口ノ港ナリ、

下田、住居ノ人民七千人、五分ノ一ハ商ナリ、然レモ官司ノ敷場所ニ不適當ナル程アリ、是亦日本ノ市街ニ尋常ナリ

○長崎

千八百五十四年、外國通商爲開キタル、唯此一箇所ナリ、深キ大村湾ニ因テ形勢ヲ成シタル岬崎ナリ、緯線三十二度半五分、經線百二十九度五十一分ナリ、

此港、廣ク深ク長サ四里ニ廣ク、横ハ中ヲ取リテ一里余モアル、湾ノ入口ニハベシブルグトイヘル小島アリ、爰ニ水深サ、二十尋アリ、而シテ對岸ノ市街、淺クシテ深サ四尋ナリ、

市街、東岸ナリ、狹隘ナル谷地ニシテ、地形斜ニ東方ニ下リ、街衢好ク建築シテ、清潔ナリ、家作ハ尋常高サ二層ニシテ、木造ナリ、間隙ニ粘土ヲ充ツ、全田煉石灰ヲ以テ塗リ、家毎ニ瓦宇アリ、細紙ヲ以テ玻璃ニ當ツ、然レモ、爰ニ二所ノ鎮甚キ、并諸侯貴族ノ住宅ハ、美華セルモノアリ、格段ナル寺塔ハ、其数大凡六十、郡内外ニアリ、

此地、金銀ノ製造物ヲ出ス、其商賣、通ク他州ニ蔓延ス、住民ノ算用、種ニリ、大抵五萬ヨリ六萬ニテナリ、

長崎ハ、帝領中ノ要用ナル、五箇所ノ市街、其一ナリ、

○佐賀

長崎ヨリ東北、六十里、嶋原湾ノ北端ニ於テ、平遠ナル、好ク水氣ニ平、地ニ位置ス、肥前ノ肥饒九州ノ首府ニシテ、甚ク大ニシテ、住民多キ、市街ナリ、溝溝、市街ヲ通シテ流通シ、街上整齊ナリ、著シキ磁器ノ製造所ニシテ、海船ノ商賣繁盛ナリ、

○小倉

佐賀東北、四十里、九州海峡ノ入口ニ近キ所ナリ、狹隘ナル港ナレバ、繁盛ナル海商ヲ以テ運入ス、住民大凡二萬人

○箱館松前

ニツカガラ繁昌ト市街松前海峽、近キ所ナリ、箱館、近頃合衆國英國、通商ノ為メニ開カレテ港ナリ、前松、首府ト、鎮臺ノ住所ナリ、ニツカガラ、左程ニ大ナル市街ニハエラス、

○那覇港

琉球島ノ重正海港市街ナリ、緯線二十六度十三分、^北東經線百二十七度三十六分、^東港内安全ナリ、今合衆國英國、通商ニ開カレタリ、首府ハ首都ナリ、

琉球諸島ハ、一大島、六十五里ニ十五里アル者ト、其他大凡三十ノ小島ヲ以テ成リ、緯線二十六度半ナリ、經線百二十八度ノ間ニナリ、國內ノ管轄ニ從ヒ、此ノ諸島ハ、美ニ獨立ノ者トス、

○ロイド港

無人島中ノ海港シテ、太平洋中ノ諸小島、集合セル者、以テ、無人諸島ノ形ヲ成ス、^北緯線二十七度、^東經線百四十一度、二十二分、集ナリ、千八百五十四年ノ條約中ニ、合衆國、英國ノ海船碇泊、為メニ開カレタリ、

歴史

「マルコポロ」トイル人ハ、歐羅巴ノ遊歴人、始メテ日本國ノ事ヲ語セシメナリ、此ノ人語ニ因テ、日本ヲ「シパンゴ」或ハ「ジパンゴ」ト名ツケタリ、千五百四十二年、^トトイル人探索ヲ經、其後程ナク、葡萄牙人、長崎ニ居置テ、免許ヲ得テ、高ク有益ナル貿易ヲ固メタリ、千五百四十九年、耶穌教師、^ヲ至此、此ニ到リ、意思ヲ立テ、後ヒ、衆徒ト共、國民數多、羅馬教ニ変セシメタリ、然ルニ政府ニテハ、葡萄牙人ニ

猜妬ヲ起シ、教師ト人民ノ信心ト間ニ風波ヲ起サシメ、千五百八十四年ニ在
雷人ヲ放逐シ、人民ヲ無理ニ昔ノ宗旨ニ轉改セシム、千六百年和蘭人辛苦シ
テ國內宗旨ノ事開係セズ、次ニ通商セン事ヲ諒手勸ム、此國ノ長ク續キ
テ交リヲ整ヘタリ、然レモ、貿易ニ大損害ヲ引出シ、幾多ノ苦シキ定限ニ乘
セラレタリ、英人「ウヰリアム・アダムス」トイヘル人、海軍ノ師ナリシガ、女王「エリザベス」在位
中、日本海岸ニ於テ、破船シ、囚ニ成リシリ、此人國帝ノ眷顧ヲ受ケ、日本
英國ノ間ニ通商セバ、数年ノ間、強ク繁盛スベキニ交通事ノ話セリ、然レモ、
「ジェームス」第一世在位ノ間、英國ノ獲章ハ近ツケラズ、英人ハ外國人ノ放逐ノ
節ニアリテ、顧ミラズ、此時ヨリ、千八百零四年ニテハ、海港ハ和蘭支那ノ外、
鎖セタリ、千八百五十四年三月三十一日、合衆國ニテ格段ニ撰奉シタル役人
ナル「ゴムモドール・ヘルリ」此國上通商ノ条約ヲ仕遂ケタリ、此条約一致ニ就テ、日

本島ヲ下田、蝦夷島ヲ箱館又合衆國通商ノ為ニ開キタリ、次ノ十月
十日、英國ニテモ、同レ条約ヲ成就セリ、第三ノ開港所、未ダ地名定ミズト
雖モ、最初ノ条約決定ノ後、年ニ開カルナリ、琉球島ノ那覇、無人島
ノ「ロイド」港モ、亦同レク、合衆國英國ノ通商ノ為ニ開カレタリ

復軒生頃日無聊之餘讀千八百六十年米利
堅出板之地理書各國之地勢強弱政體風俗
又詳又悉矣就中我日本國圖說記事係十年
前間或雖有不符合于實者然國內之事情探
得亦詳也矣有感于爰寫譯而淨書之間恰好
知友二名訪尋曰近况何如即採此書示之甲
生取而讀之早看過一覽擲之曰方今我國
受侮慢於外國有年矣而國勢日益消耗於豈
乎志士懷憤憂欲雪此凌辱然西洋各國文物
夙開器械精微海陸之軍如山熟練亦極矣無

謀之策固不可施也。故吾輩着眼目於知彼知
已百戰百勝之說，將從事於此也。然西洋之學
日又日新，昨日之書不供今日之用，余輩苦之
久矣。然今此書十年一昔，過去之故紙何以翻
譯為勞力不人，果有何益乎？我傲言一發，辭氣
益驕。乙生取卷掩之，徐說起曰：子說誠宜矣，
然恐失作者之意。抑米利堅之始來日本也，實
安政甲寅之歲矣，而開港在後之三年。然則彼
未始貿易者，實在自今十三年之前也。今此書
之著在十年前，則開港後僅三年之所上木者，

何況米利堅距我五千里，然而當時其國中
人坐而知我如此，其探索之速，豈可不驚怖哉！
知彼知已之論，今子之所說，何圖十年前于今
彼之知我如此精且悉也。物換星移，十年之間
固且日新之國，其於現今，悉我之情實，果何如
哉！作者之意，蓋有大感于此，而譯之以示同知
吾輩，宜謝其厚意。然子何容易之見，以駁之于
甲生，不能答。乙生揮氣少厲曰：且知彼知已之
說，子只着眼目焉耳矣。未聞研究於彼，且知彼
之事，當先詳已之情。子於國內之地理時勢，既

已悉之美乎。今暫以近似之事試問子之於國
內之事已悉之美乎否。抑東西兩京者。皇國
之樞機。緯線經線。當何度之位置。何如。甲生默
然。乙生揮氣益厲曰。西京之經緯度。此卷中細
記之美。今子不覽此卷乎。徒然早。看過。擲之。
倉卒之說。突然說起。以駭人。失敬。殊暴。莫甚於
是。如此書則為浮輕不熟。牽事物。吾子等之頂
門一針。宜欽而熟讀。而般之也。甲生悅首而已。
矣。乙生揮氣漸殺。發一太長息曰。知彼知己之
語。總為今日書生。議論茶話之口實。未復一人

研究於是也。然而彼先于我十年于茲。既已如
此。其於當今。至肺肝臟腑。亦洞見也。必矣。其於
交際應接上。着。被先於彼。着。被侮於彼。着。
被制於彼。不亦宜乎。寧時烟盒火消。茶鼎全
冷。

六十八國

東西海陸共行程凡五百十五里
南北大三廣狹アリ

郡數

六百三十二郡

田畝

九十六萬五千九百十五丁二反

粗米

二千二百四十六萬八千二百九十石

近年之事多不知

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大日本全領五畿七道壹政對馬惣人數通計

但百濠人ナ

貳千六百一十壹萬七千八百三十人

内 男子三百九拾壹萬八千六百五十四人
女子貳百十九萬九千七百七拾六人

此余諸侯公家武家僧侶除之

御上洛者江戸中以下者金

三万兩 此錢壹億九千五百八十四万令令令文

時相堪 六貫五百二十八文

合算論云以下者安一錢を軒三萬五千九百九十二

江戸常數六万二千三百八十九軒

同 京都

三万兩 京都府金壹萬九千九百九十二

京都常數二万八千四百六拾九軒

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. There are some faint markings and a checkmark at the top left of the text area.

